

きれいな川を あなたも貴重な生物を

暴れ川赤城白川

もともと赤城白川は、一年中あまり水のない川で、大雨が降ると洪水を起こしていました。水が引くと辺り一面が真っ白になってしまったといいますが、この名の由来。水量を増やすため、赤城大沼から水を引く工事をした際、赤城山の土が運ばれたため、山頂でしか見られないような植物が生育しています。またクサボケの群生やキリギリスモ



自然豊かな赤城白川

見られます。この川は天井川で、兩岸の土地を開発しづらく、人の手が入らなかった地形だったことが幸いし、自然が守られてきたのでしよう。ゴミをなくせば、ホテルがすめる環境にもできるそうです。

水田にカブトエビも

田植えの後、水田の端に見られる甲殻類です。田の中の泥をかき回して雑草を防除することから草取り虫とも呼ばれ、利用している農家もあるそうです。このカブトエビの生息分布を片山さんらぐんま自然観察指導員会が県内調査しました。桃ノ木川と広瀬川の流域に二種類が大量に生息していると分かったそうです。乾燥期、土中に入った卵が、田に水が入るとふ化するのので、同じ水田に発生します。

一度、水田の周りを探してみませんか。

川も生き物です

川も自然の生き物です。静かに流れているようでも、川上から土砂が運ばれどどんたいせきします。そのままにしておいたら、川底に土がたまり大雨の時に洪水を引き起こすこともあります。川底の土砂をさらうことは大切なのです。

以前は、こうした作業や河川の草刈りを水の少ない時に一斉にやりましたが、今では、動植物を守るために、場所を区切って移動しながら行うそうです。

素晴らしい自然の力

長い間、川は田畑に水を潤すかんがい用水の役割を果たしてきました。昔は、大切な水が

流れる川を守り、ゴミを捨てることもなく清流が保たれ、子どもたちの魚釣りや水浴びなど、身近な遊び場だったのです。

しかし、洪水を防ぐために高い堤防や護岸が築かれ、川と人との関係が離れてしまいました。都市化に伴って農業用水の役割が小さくなり、川に対する人々の関心が一層薄くなってしまったのではないのでしょうか。

ゴミを捨て生活排水にも配慮せず川はますます汚れて、子どもたちが遊べるような所が少なくなってしまうました。この現状を少しでも改善していきませんか。市内の川は、今からでも十分再生できる力を持っているそうです。

毎年、決まった時期に観察を続け、川の様子を見続けていきます。根気よく続けることが、やがて大きな力になるのではないのでしょうか。

さまざまな活動が行われています

水生生物による川の水質検査
魚類や水辺の昆虫、草花の調査
川の清掃活動など

きれいな川を守るために、さまざまな取り組みに頑張っている団体やグループなどが、市内にはたくさんあります。その中

から主なものを紹介しましょう。
児童文化センター子ども環境冒険隊

四年生から六年生までの小学生が、さまざまな自然環境を調査。今月二十六日には「里山をしらべよう」、来月三日は「赤城

白川の水質をしらべよう」が予定されるなど、実地活動も盛んです。

野メダカを育てる会

絶滅危く種でもあるメダカの飼育を通じて、自然環境を考えることが目的。その一つとして

元総社エコクラブ「わんぱく探検隊」

児童文化センターにある人工のむつみ川の維持管理にも努めています。

元総社小、元総社南小、元総社北小、元総社中の児童・生徒が中心に、歴史あふれる地元を流れる牛池川で水質検査やクリーン活動を展開。また、「元総社北小周辺で「水辺の楽校」とい

朝倉小

う事業が計画され、地域の皆さんの希望と関心が高まっています。

人と自然がともに生きるをテーマに、児童による水辺環境の研究活動が盛ん。校庭には「わくわく池」なかくし川」を中心に、「トカゲ団地」「バッタひろば」「カブトムシほいくしよ」があります。